

慰になるぞかし、何事も見た事なくては、漸にもなり難し、兎角人の心も武藏野なれば、廣しと沙汰する所へ、田夫なる男の、小さき手玉の掬網に小桶を持添へ、此宿に來りぬ、何ぞと見れば棒振虫、是金魚のゑばみなるが、一日仕事に取集めて、やうく、錢二十五文に賣りて、又明日持つて參るべしと、下男どもに輕薄言ひて歸る。

〔名家略傳〕島の勘十郎

元祿のころ、京師室町通り三條のほとりに、櫻木勘十郎といへる人ありしが、○中庭に小池あ

りて、金魚あまた放ちおき、そこよりわが居間の樓へ、階梯をかけわたしたり。
〔東都歲事記〕四月當月より金魚、ひごひ、メダカ等街を賣あるく、金魚に、わきんらんちう。三ッ尾。ふな。尾れもくろは何。さらさ。まだら數品あり、所々金魚屋數種を育す。

〔守貞漫稿〕生業錦魚賣。

金魚ハ紅色ノ小魚、池中及ビ盤中ニ畜テ觀物トス、三都トモニ夏月專ラ賣之、又錦魚ニ異種アリ、形小尾大ニシテ大腹ノ者アリ、常ニ尾ヲ止ニ首ヲ下ニ泳グ、京坂コレヲ蘭蟲ト云ランチウト訓ズ、江人コレヲ丸子ト云マルヅコト訓ズ、腹大ニシテ形鞠ニ似タル故ニ名トス、又マルヅト云ハ江人ノ訛也、又大腹ニ非ズシテ尾大ノ者ヲ、三都トモニ朝鮮トモニ、各必ズ尾ハ三尖也、三尖ノ者ハ鯉ニ類ス、故ニ緋鯉ト云、緋鯉錦魚三種トモニ、紅アリ、白アリ、紅白ヲ交ルアリ、黑斑モアリ、丸ツ子朝鮮等貴價ノ者ハ價金三五兩ニ至ル、又此賈京坂ハ必ず各々白鰐ノ手甲脚半甲掛ヲ用フ、江戸ハ定物ナシ、又京坂ハ錦魚桶上ニ柳合利一箇ヲ置ク、是皆旅人ニ扮スル故也、而モ三都トモ各畜之テ製スル元店アリ、

〔燕石雜志〕俗呪方

除金魚虱、金魚の瘦て身に白帶あるは、虱のわきたる也、久しうからずして必死す、そのときはやく